

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2022年
7月11日(月)
第177号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

2022年度 保育を楽しもう会@Tokyo 第1回講座を6月15日開催

「明日の保育がもっと楽しくなる」ことをめざして！

今年度の「保育を楽しもう会@tokyo」は、講師の高橋先生が日々書き綴っている「クラスだより」をもとに「明日の保育がもっと楽しくなる」と思えるような学習会を目指しています。

第1回はZoomを通じて、70名弱の参加

講師の高橋光幸さんからは、クラスだよりと保育実践を通して、保育の歴史を若い人にも知ってほしいとの思いがまず語られました。

最近のエピソードとして『匍匐（ほふく）室とは』という具体的な言葉から、最低基準について触れていきました。世界で見ても一番狭い環境。待機児童解消のために、大阪ではさらに緩和した基準で保育が行われています。

また、東京都は国の基準を上回って保育が行われている点についての歴史、特に「革新都政」で保育園の現在の基盤が作られた事が語られ、参加者からも初めて知ったことや、他の自治体との違いに驚いたとの声をいただきました。

しかしながら、民営化や園ごと（公私や認可などの種類）によっても違う環境のもと、全国の保育水準を引き上げるには最低基準の改定しかあり

ません。自治労連保育部会の政府との交渉では「最低基準を引き上げると業務が成り立たない園が全国で出てくる」という話が出されたと言われました。

また、クラスだよりをもとに、講師の保育内容の動画を用いた講演の中では、思わず笑みがこぼれてしまうエピソードもありました。

まとめとして、「東京はいい条件ではないが全国的にみたらかなりよい条件のほうではある。保育業界全体を変えていかないといけない。変えていくために組合の運動をしていく。そして、保育者の専門性を高めるのも大事。そのために実践をしたり、スキルを磨いたり保育・福祉・教育について学んで知識を深めていくようにする」ということが語られました。

後半のグループ交流では

各グループ8名程度の参加で30分という短い時間でしたが、日頃の保育のことや自治体間の情報を交換する中で、新たな発見がたくさんあり、感想の中でも、自分の保育を見つめなおすきっかけになったと感じました。

アンケートより

面白い保育をするには条件が大事！というところにハッとさせられました。これからも色々なことを学ばせていただければと思います！（世田谷区 保育士）

